



平成 29 年 1 月 12 日

各 位

会 社 名 日本ビューホテル株式会社
住 所 東京都台東区西浅草三丁目 17 番 1 号
代 表 者 名 代表取締役社長 遠藤 由明
(コード番号：6097 東証第一部)
問い合わせ先 常務取締役 矢島 学
TEL. 03-5828-4429

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、2018 年 4 月期から 2021 年 4 月期までの 4 ヶ年の中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の策定について

当社は、2016 年 4 月期から 2018 年 4 月期までの 3 ヶ年の中期経営計画を策定し、これまでこの計画に沿い、経営を行って参りました。今般、これまでの業績の進捗および経営環境の変化等に鑑み、この中期経営計画を 2017 年 4 月期で終了とし、新たに 2018 年 4 月期から 2021 年 4 月期までの 4 ヶ年の第 2 次中期経営計画「VIEW HOTELS Mission - Sustainable Growth -」を策定いたしました。

2. 業績目標（連結）

単位：百万円

	2018 年 4 月期計画	2019 年 4 月期計画	2020 年 4 月期計画	2021 年 4 月期計画
売 上 高	22,000	23,000	24,000	25,000
営 業 利 益	700	1,200	1,400	1,750
経 常 利 益	550	1,050	1,200	1,600
営 業 利 益 率	3.2%	5.2%	5.8%	7.0%

詳細は別添資料をご参照ください。

以上

日本ビューホテルグループ 第2次中期経営計画 2018年4月期～2021年4月期

VIEW HOTELS Mission
- Sustainable Growth -

2017年1月12日

 日本ビューホテル株式会社

(証券コード: 6097)

1	中期経営計画の基本方針	2
2	経営の状況と課題	8
3	経営戦略	12
4	業績の計画	21
5	株主還元	26
6	補足資料	29

1 中期経営計画の基本方針

2 経営の状況と課題

3 経営戦略

4 業績の計画

5 株主還元

6 補足資料

ビューホテルグループ ミッション

私たちは、
 地域や関わる人々とのつながりを
 大切にしながら、
 料理へのこだわりと
 親しみのあるあたたかいサービスによって
 心地よいホテルライフを提供し、
 社会に必要とされる
 ホテルグループを目指します。

ビューホテルグループのコンセプト

ホスピタリティ あたたかい“おもてなし”

- 『こだわりの料理』と『親しみのある、あたたかいサービス』による“おもてなし”を提供。
- 「マインドの育成」を中心とした教育研修を実施し、モチベーションの高い社員によるサービス提供の土台を醸成。

地域密着 地域を愛し、地域に愛されるホテル

- 各地域において高いブランド力・知名度を有し、多くのリピーターからの支持を獲得。
- 地域限定プランの提供や地域貢献活動等、地域社会と積極的に交流を深め、高い信頼関係を構築。

ビュー 景色・ロケーション

- 浅草ビューホテル・伊良湖ビューホテルを代表として、施設からの景色をサービスの一つとして位置付け。
- 観光資源や観光・ビジネスの拠点としての立地を重視した展開。

進化と変化 マーケットや社会への対応

- マーケット、顧客ニーズ、時代や社会に即した経営。施設・サービス・商品の進化と変化。

第2次中期経営計画の位置付け

当社グループのミッションを達成するため、上記のコンセプトに基づき、長期持続的な成長を目指していく上でのこれからの4ヶ年の基本戦略を示す経営計画

VIEW HOTELS Mission
- Sustainable Growth -

第2次中期経営計画の骨子

1. 更なる安心・安全の追求

- 大型機械・設備の計画的更新
- 成田ビューホテル → 西館、東館の耐震補強工事

2. 各事業所の現状・市場・将来性の再検討

- 高崎ビューホテル → 営業終了を決定
- 秋田ビューホテル → 資産価値の見直し
- 浅草ビューホテル → ロビーフロア改装

3. 大都市圏に賃借での展開

- 両国、札幌、大阪の開業、および今後の新規事業展開

4. 株主還元

- 安定配当と自己株取得

経営指標の目標(連結)	中期経営計画の目標 2021年4月期	長期目標 2027年4月期
売上高	250億円	310億円
営業利益	17億円	25億円
経常利益	16億円	23億円
EBITDA	37億円	45億円
ROE	7.3%	8.0%
直営ホテル・旅館	13施設	20施設

EBITDA: 減価償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

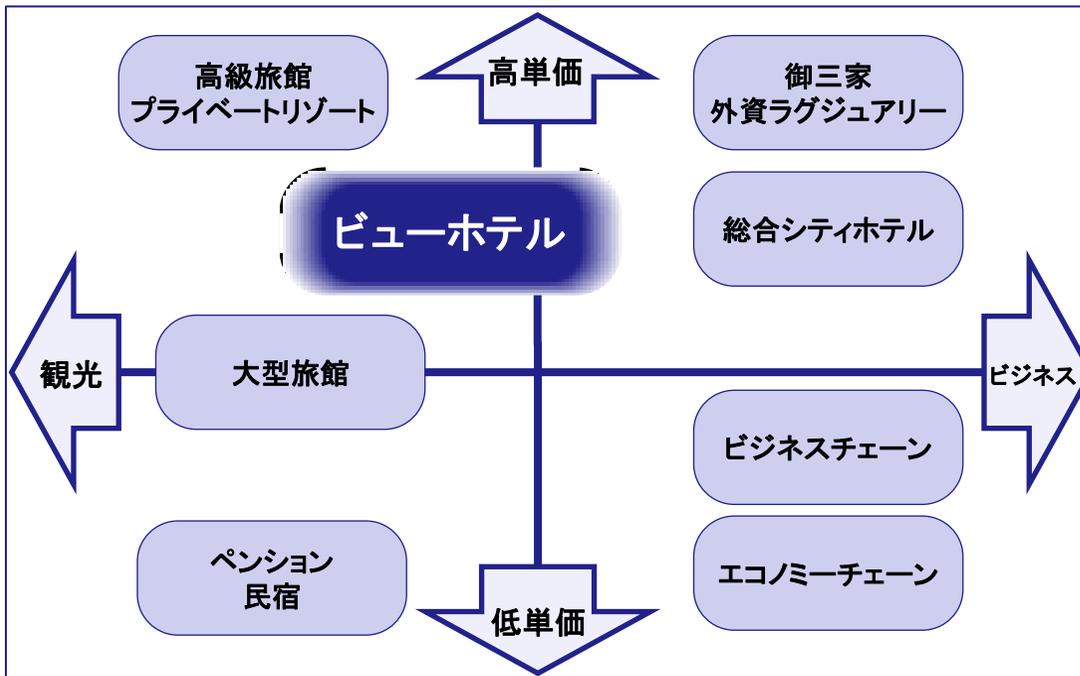
新規ホテルの展開により収益の柱を増やし、長期持続的な成長サイクルの構築へ

1. 中期経営計画の基本方針 ④事業展開のイメージ

ビューホテルとは？・・・事業展開のバックボーン

- 形式にとらわれず温かみと親しみのあるサービス
旅館・リゾートを発祥とするおもてなしの心得
- 立地条件や市場に即した営業戦略による利益創出
リゾート、地方都市、都内へと拠点を展開、マーケットの違いに順応した経営
- 多様な販売チャネルを駆使した多様な顧客層からの集客力
各ホテル現地営業、本社営業部、リアルエージェント、OTAなど販売チャネルを広げ、個人、各種団体、インバウンドなど厚みのある集客力
- “食のVIEW”、“味のVIEW”へのこだわり
和・洋・中、直営による多彩なレストランを営業

チェーン展開ゾーンのイメージ



都市型観光ホテルの展開

観光立国推進政策

余暇の充実への欲求

立地

- 観光資源と観光地への交通アクセス拠点

顧客層とホテルのグレード

- アッパーミドルクラス
 - ✓ 堅実な日常生活、自己流消費
 - ✓ 二極化するブランド観
 - ✓ 自由度の高い休日
 - ✓ ハレの日消費(記念日、旅行)、贅沢気分
 - ✓ 社交性(パーティーや食事会)

※出所:電通総研「アッパーミドルクラス消費行動・生活意識実態調査」

- ADRとDOR
 - ✓ 一定程度の高価格帯
 - ✓ 1室あたりの人員による収益性

※ADR: Average Daily Rate (アベレージ デイリー レート)
平均客室単価(客室売上高 ÷ 販売客室数)

※DOR: Double Occupancy Ratio (ダブル オキュパンシー レシオ)
1室当たりの平均宿泊人数

出店形態

- 賃貸借を基本
オペレーターチェンジ、リノベーション、コンバージョンも検討
- 海外は投資リスクを抑制、運営受託契約による展開

1. 中期経営計画の基本方針 ⑤ホテル展開コンセプト

コンセプト ~ 都市型観光ホテル

- 1st Tier : 東京、大阪、札幌、名古屋、京都、福岡
- 2nd Tier : 横浜、神戸、金沢、広島
- リゾート : 箱根など

出店エリア ~

ターゲット(観光>ビジネス)

個人~団体、日本人~外国人まで幅広い観光客の取り込み

- 日本人観光客
- 訪日外国人観光客
- 各種団体・修学旅行
- ビジネス客



施設・部屋

日本人には癒しを、外国人には和を感じさせるモダンジャパニーズ

- 150室以上/1施設、平均20㎡以上
- ツインルーム主体、トリプルフォースも設置
- 大浴場や庭園など、癒しと寛ぎの施設・空間



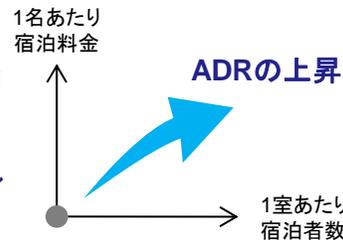
多面的に他ホテルとの差別化を図る

販売戦略

1室あたり宿泊者数を意識したレベニューマネジメント

- 本社営業部による団体獲得
- リアルエージェントとのネットワーク・販売力
- 自社サイト、OTAによるWEB集客

個人・団体×リアル・WEBの最適コントロール



サービス・クオリティ

“食のVIEW” & あたたかい“おもてなし”

- ハイクオリティな多彩で充実した朝食
- 五感で楽しみ、思い出に残る食事
- 立地等に合わせランチ、ディナーを営業
- 温かみと親しみのある心地良いサービス



国内をメインに年1~2店舗のペースで新規ホテル・旅館を開業し事業を拡大
直営ホテル・旅館数を現在の11施設から2027年4月期までに20施設へ

1 中期経営計画の基本方針

2 **経営の状況と課題**

3 経営戦略

4 業績の計画

5 株主還元

6 補足資料

前中計期間の主なトピックス・設備投資

2015年7月 ■ 東京証券取引所市場第一部指定

2015年8月

浅草ビューホテル 4F 宴会場改装



2015年9月

秋田ビューホテル チャペル改装



2015年10月 ■ 大阪ビューホテル本町 基本合意締結 (2018年春開業予定)
■ ヒューリック(株)と資本・業務提携締結

浅草ビューホテル 「武蔵」改装



成田ビューホテル 8F・9F 客室改装



2015年11月 ■ 東証一部指定記念配当を決定
■ MCPⅢによる株式売出し
筆頭株主の異動

2015年11月 ■ 両国ビューホテル 開業

両国ビューホテル 全客室改装(～2016年3月)



2016年3月

成田ビューホテル 1F レストラン改装



伊良湖ビューホテル 6F 客室改装



2016年7月 ■ 札幌ビューホテル大通公園 基本合意締結(2017年5月開業予定)
■ 那須の恵み Mekke! 開業



2. 経営の状況と課題 ①前中期経営計画期間の振り返り

前中期経営計画に対する連結業績の進捗状況

	2012/4期 実績	2013/4期 実績	2014/4期 実績	2015/4期 実績	2016/4期				2017/4期				2018/4期
					前中計	実績	計画比		前中計	予想	計画比		前中計
売上高	15,742	16,820	17,645	18,188	19,090	19,721	+631	103.3%	20,090	21,000	+910	104.5%	20,660
営業利益	331	348	593	869	960	1,327	+367	138.2%	1,150	1,420	+270	123.5%	1,420
経常利益	792	851	774	1,058	830	1,258	+428	151.6%	1,080	1,310	+230	121.3%	1,340
営業利益率	2.1%	2.1%	3.4%	4.8%	5.0%	6.7%	+1.7%	-	5.7%	6.8%	+1.1%	-	6.9%

- 訪日外国人旅行者の増加に伴う宿泊マーケットの拡大により増収基調を継続
- 浅草ビューホテルを中心とした既存施設の改装や営業施策が業績の伸長に寄与

新規ホテル案件の進捗

■ 2015年11月 両国ビューホテル 開業



国技館や江戸東京博物館など、江戸情緒が溢れ、伝統と時代を楽しむ街 両国

客室を葛飾北斎の「富嶽三十六景」をあしらったデザインに改装、モダンジャパニーズルームなどを設置



本社営業部による団体集客やWEB商品の展開、レベニューマネジメントにより業績を拡大

今後の経営の前提となる状況の変化

- 成田ビューホテル東館・西館の新耐震基準対応
成田ビューホテル東館と西館の新耐震基準対応のため2018年4月期～2019年4月期に耐震補強工事を計画
- 高崎ビューホテルの新耐震基準対応
耐震補強工事とその採算性等を検討した結果、2017年12月末を目途に営業の終了を決定。2017年4月期に減損損失6億円を計上
- 秋田ビューホテルの減損損失計上
秋田ビューホテルの借地権等につき、不動産市況および事業環境の変化に伴い2017年4月期に減損損失19億円を計上

業績の進捗、新規ホテルの開業、経営環境の変化などに鑑み、新中期経営計画を策定

ホテル業界を取り巻く環境・動向

- 訪日外国人は2016年に2,400万人を突破
政府目標は2030年(平成42年)までに6,000万人、今後も増加の期待
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催
都心を中心に新規ホテルの開業予定があるものの、供給不足状態が継続
- 国民のレジャー・余暇生活への重点意識は高く、宿泊マーケットは拡大基調を継続
- 国内総人口の減少、シニア層比率の拡大、都市部への人口集中

取り組むべき課題

- 2020年に向けて更に厳しくなる首都圏での競争環境への対応
- アジアを中心とする訪日外国人マーケットの拡大への対応
- 高齢化の進展や社会構造の変化による消費行動の変化・多様化への対応
- 労働市場の変化への対応

1 中期経営計画の基本方針

2 経営の状況と課題

3 **経営戦略**

4 業績の計画

5 株主還元

6 補足資料

3. 経営戦略 ①設備投資計画

長期的な視野に立った設備投資戦略の方針

安心・安全への取組み

資産価値の維持・向上

収益性・投資効率の向上

- エンジニアリングレポート(ER)に基づく設備投資(防火・防災・防犯・衛生)
- 戦略的な施設の改装
- 将来的な成長性に鑑みた拠点編成

設備投資計画の概要とEBITDAの計画

	投資予定額(単位:億円)					主な項目
	2018/4	2019/4	2020/4	2021/4	合計	
ER対応	18	16	7	9	51	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成田ビューホテル 西館・東館 新耐震基準対応 ■ 浅草・成田 エレベーター、受変電設備更新 など
戦略投資	25	6	10	8	50	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浅草ビューホテル ロビーフロア改装 ■ 成田ビューホテル 客室改装 ■ 札幌ビューホテル大通公園 客室増室、レストラン改装 ■ 大阪ビューホテル本町開業 など
IT・一般等	6	5	2	2	16	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社PC交換 ■ 厨房設備更新 など
合計	50	28	20	20	117	
EBITDA	23	30	32	37	123	

浅草ビューホテルの改装

旗艦ホテルを更に魅力的な空間に

日本情緒をテーマとしたロビーフロアの改装

■フロントロビー

ホテルの顔であるロビーフロアを改装し、日本情緒を現代的に表現したハイクラスな空間を演出

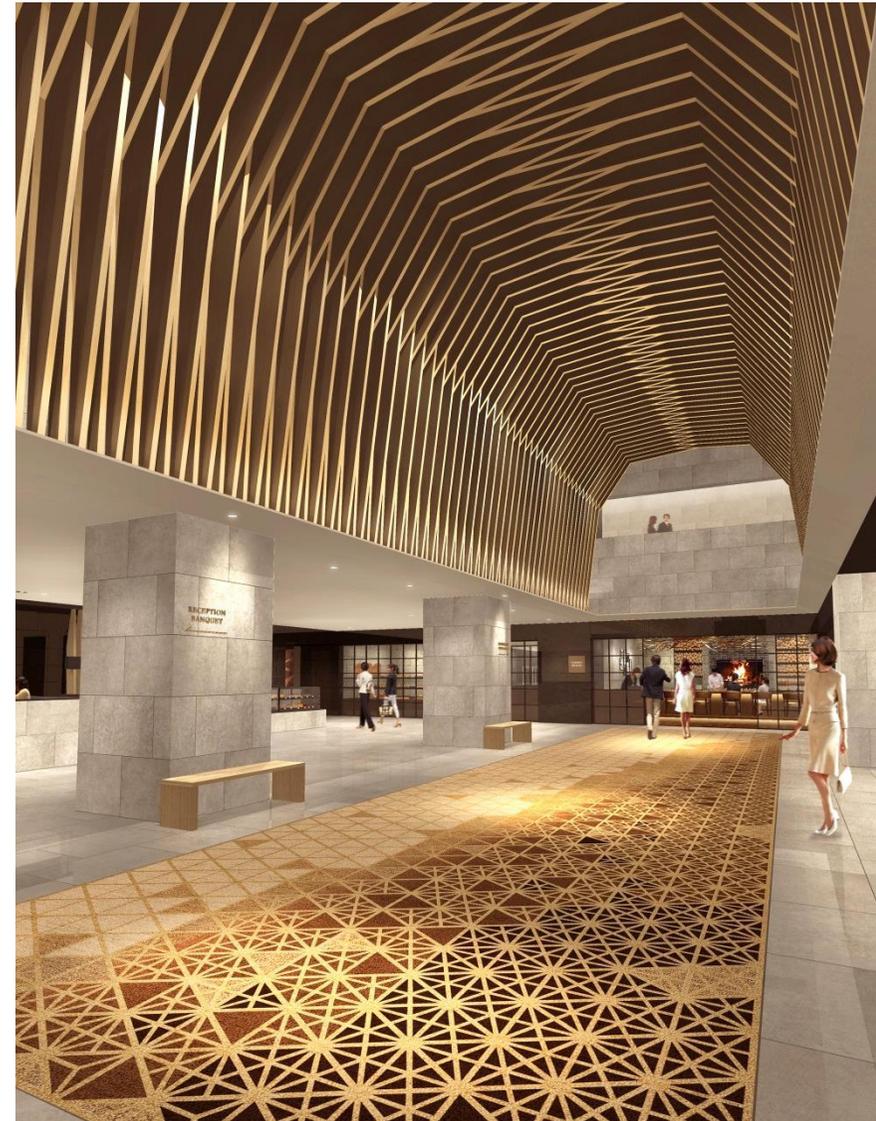
■レストラン・ラウンジ&バー

「和」と「洋」の自然な共存をテーマに、スタイリッシュな大人の空間に改装し、バラエティ豊かな料理やドリンクを提供

■デリカ

拡大する中食需要に対応、「デリカ」を拡充。ホテルメイドのお惣菜、パン、スイーツなどを多彩なラインナップで販売

ブランドイメージを高め、宿泊・料飲の売上を増進



グローバルな「和」を表現したスタイリッシュなファーストロビー(イメージ)



本物の浅草を体感できるセカンドロビー(イメージ)

「札幌ビューホテル大通公園」の開業

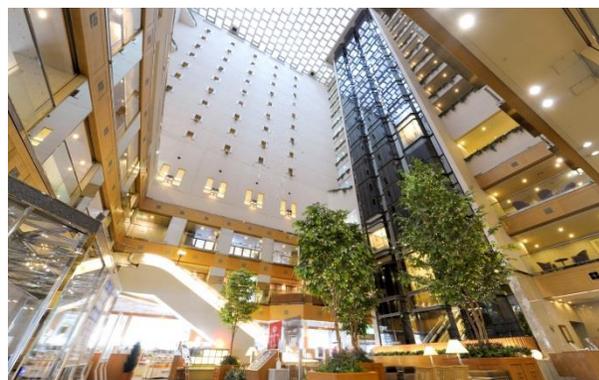
- 札幌市大通公園に隣接したリゾート型シティホテル、2017年5月開業予定
- 中心繁華街「すすきの」に徒歩5分、JR札幌駅に車で5分、観光やビジネス需要を取り込み
- 1Fロビーから14Fまで開放感のある吹き抜けアトリウム
- 北の大地初進出となるビューホテルズ19番目のホテル

改装・営業のコンセプト

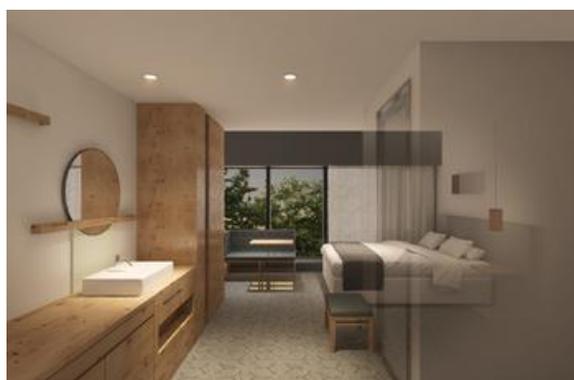
- 客室を70室程度増室
- 2階～4階のレストラン・宴会場エリアを客室に改修
- ブッフェレストランを新設し、レストラン・バーを5ヶ所から2ヶ所に集約
- 婚礼部門の営業を終了



新しいブッフェレストランのイメージ



吹き抜けのアトリウムロビー



新しい客室のイメージ



既存施設の概要

所在地：〒060-0042 札幌市中央区大通西8丁目

交通：JR札幌駅より車で5分
地下鉄南北線大通駅より徒歩5分

建物：地上14階、地下3階

客室数：285室(5階～14階) 収容人員514名
シングル72室、ダブル10室、ツイン191室、
他12室

付帯施設：レストラン・バー・ラウンジ(5施設)、
ホテルショップ、宴会場(8会場)、結婚式場、
写真室、衣装室、駐車場(62台)、他

2016年12月末現在の施設の状況を記載しています。改装等により変更になる予定です。

「大阪ビューホテル本町」の開業

- 大阪府中央区本町に客室170室の宿泊特化型ホテルを2018年春開業予定
- 御堂筋線・中央線・四つ橋線の各「本町」駅より徒歩2～4分の好立地に位置し、「心齋橋」駅へ1駅2分、「なんば」駅へ2駅4分
- 大阪を代表するビジネス街で、大阪観光の名所が多数点在する「心齋橋」、「なんば」にも近く、ビジネスだけでなく、国内外のお客様の観光拠点としても利便性に富む
- 和のコンセプトで「景観」を生かした上層階客室やモダンな和風庭園
- 「食のVIEW」をコンセプトにした地域密着型の直営レストラン

施設の概要

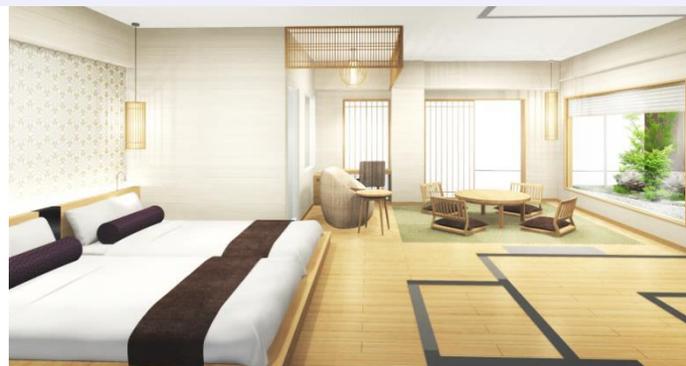
所在地 : 〒541-0053 大阪府中央区本町四丁目5番2号

交通 : 地下鉄御堂筋線、中央線、四つ橋線 各線本町駅より徒歩2～4分

建物 : 地上19階、地下1階

客室数 : 170室(2階～19階) 収容人員380名
シングル16室、ダブル16室、ツイン122室、和室8室、和洋室8室

付帯施設 : レストラン(1施設)、駐車場 他



ヒューリック㈱との資本・業務提携によるホテル出店機会の増加期待、経営課題の解決



ヒューリック㈱との業務提携の項目

- 1 両社の取引先及び関係先のネットワークを活用した、ホテル、旅館等の宿泊施設の運営に関する知識・経験を通じた、浅草エリア等における営業協力
- 2 国内外の新規開発プロジェクトに関する情報共有
- 3 当該情報に基づく新規開発プロジェクトへの参画
- 4 ヒューリックから当社への施設の建替、改修工事等に関するアドバイス
- 5 当社が保有する遊休不動産の有効活用のための協働した開発事業
- 6 人材交流

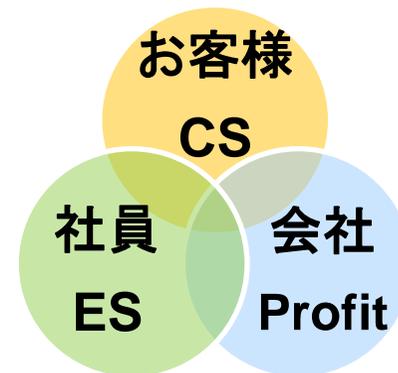
お客様に感動と喜びを提供するために

「ビューホテルらしさ」の追求

ブランド価値の向上・企業価値の拡大

- ・お客様に喜んでいただける商品とサービスで社会に貢献する
- ・働く人全員が幸せな会社になる
- ・高収益を上げ、ステークホルダーの期待に応える

社会に必要とされるホテルグループ



ビューホテルブランド

有形価値

客室、宴会場、レストラン、
WEBページ、ポスター
パンフレット、制服、ロゴ 等

無形価値

人的サービス等

ビューホテル品質

ビューホテルグループで働く一人ひとりが
生み出す「商品」と「サービス」の品質向上
を目指す

これからは「無形価値」の向上が、
強いホテルグループ作りには必須

教育

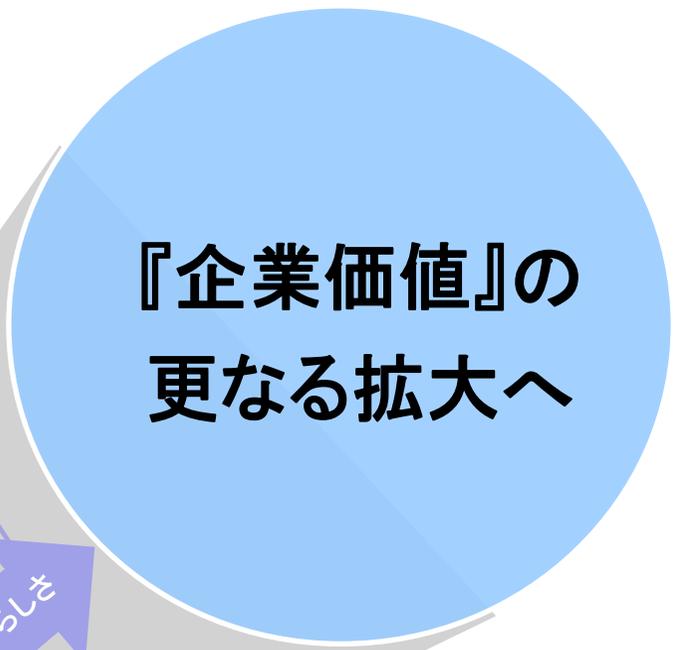
評価

採用

“ビューホテルらしさ”の追求(企業理念の浸透)＝「ブランド価値経営」

「ビューホテルらしさ」を推進力に
企業価値の更なる拡大を目指します

- ・当社のありたい姿
- ・新たな企業理念
(ミッション)
- ・スタイル(行動指針)



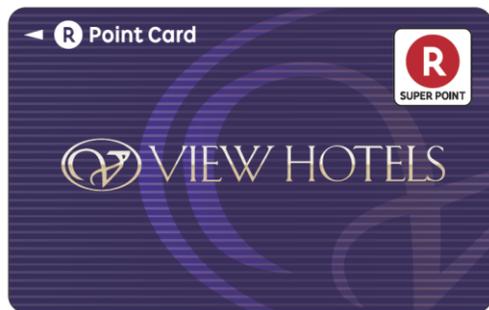
- 消費者ニーズへの対応
- 労働市場への対応
- 新たな企業理念に基づく戦略



- ホスピタリティ
- 地域密着
- ビュー(景色・ロケーション)
- 料理

ステークホルダーの目線

共通ポイントサービス「楽天ポイントカード」で楽天株式会社と提携



ビューホテルズオリジナル
楽天ポイントカード

日本ビューホテルグループが運営するホテル、レジャー施設において、2017年春を目途に順次「楽天ポイントカード」が利用可能になります。お客様は対象商品の購入時に「楽天ポイントカード」を提示すると楽天グループの各種サービスで利用できる「楽天スーパーポイント」が付与され、支払い時にも「楽天スーパーポイント」を利用することができます。

◆「楽天ポイントカード」が利用できるホテルは、当社が業界初

当社独自のポイントキャンペーンの実施

- ・ポイント2倍キャンペーン
- ・30万ポイントプレゼントキャンペーン など



楽天主催によるメディア露出の強化

- ・全国版TVCM
- ・インフォマーシャル
- ・E-Mail
- ・DM
- ・モバイル通知
- ・Webページ
- ・SNS



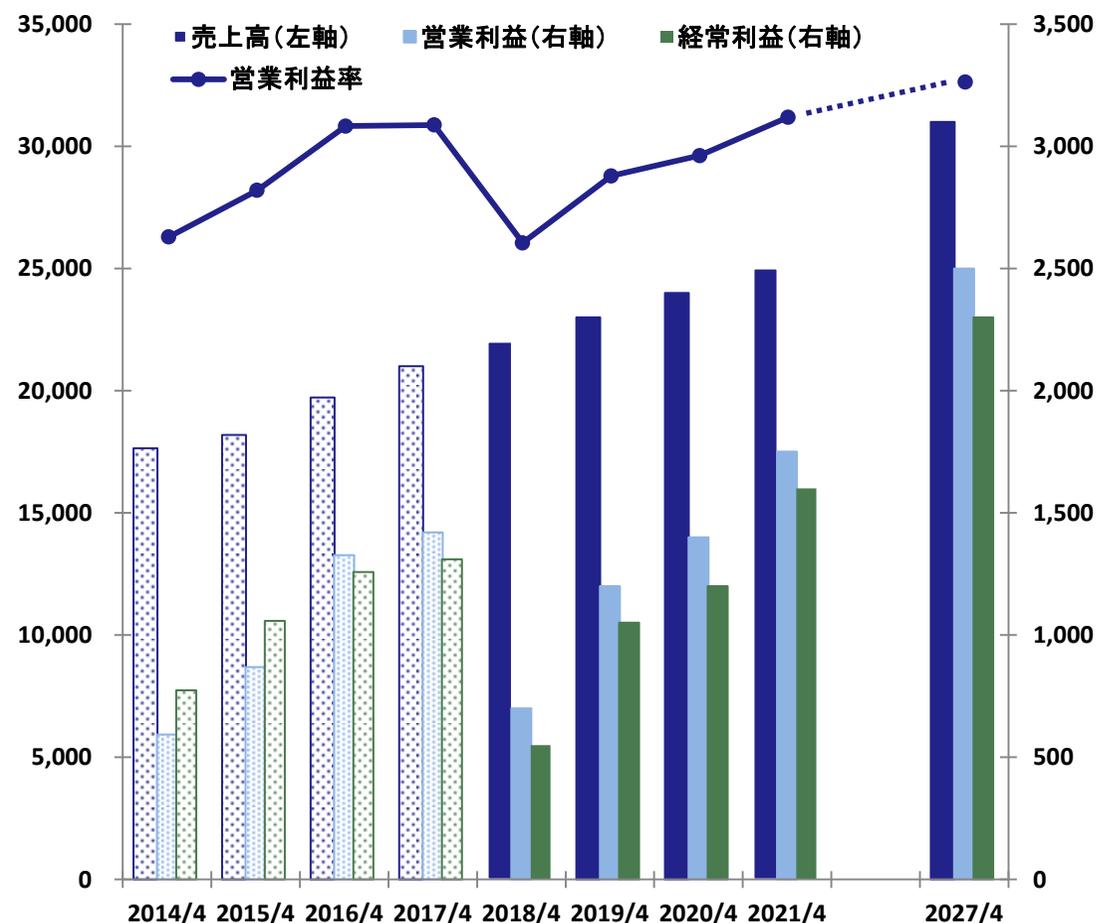
「楽天ポイントカード」主なパートナー企業(一例)



1	中期経営計画の基本方針
2	経営の状況と課題
3	経営戦略
4	業績の計画
5	株主還元
6	補足資料

4. 業績の計画 ①連結

単位:百万円	実績				業績予想 2017/4期	中期経営計画				長期目標 2027/4期
	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期		2018/4期	2019/4期	2020/4期	2021/4期	
売上高	17,645	18,188	19,721	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000	31,000	
営業利益	593	869	1,327	1,420	700	1,200	1,400	1,750	2,500	
経常利益	774	1,058	1,258	1,310	550	1,050	1,200	1,600	2,300	
営業利益率	3.4%	4.8%	6.7%	6.8%	3.2%	5.2%	5.8%	7.0%	8.1%	

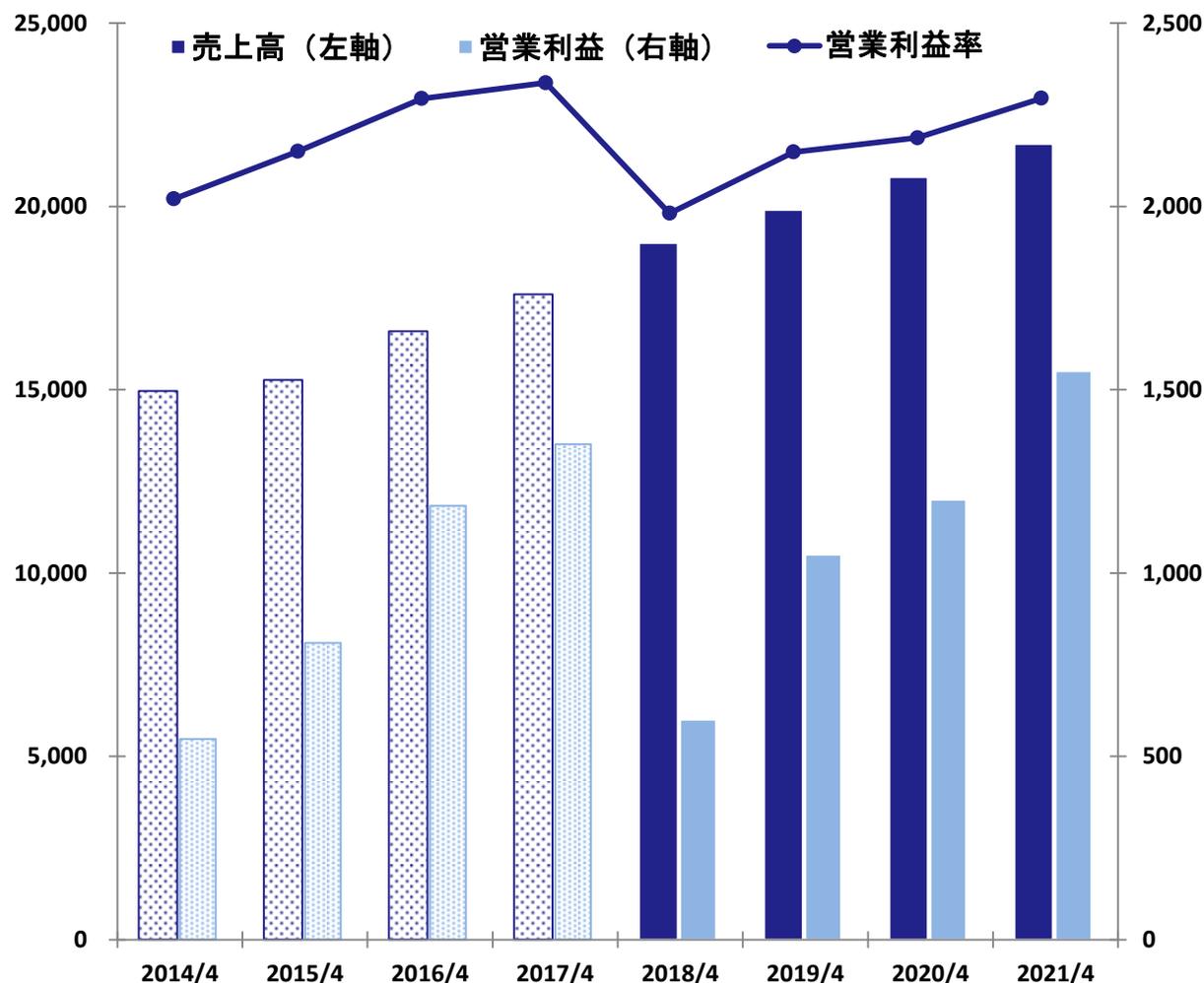


連結業績計画(2018年4月期～2021年4月期)の概要

- **増収基調**
2017年5月の札幌VH、2018年春の大阪VHと、新規ホテルを順次開業。宿泊マーケットの拡大もあり増収基調を継続。
- **2018年4月期**
2017年12月末での高崎VHの営業終了の他、浅草VHロビーフロア改装・受変電設備更新、札幌VH改装、大阪VH開業準備投資、成田VH東館・西館新耐震基準対応などの大規模な設備投資を集中的に計画。長期持続的な成長の為の施策により、一期大幅な減益を計画。
- **2019年4月期以降**
新規開業ホテルが業績に寄与、再び増益基調へ。2020年4月期の営業利益を2017年4月期並みに回復、以降長期持続的な成長サイクルへ。

4. 業績の計画 ②ホテル事業

単位:百万円	実績			業績予想	中期経営計画			
	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期	2019/4期	2020/4期	2021/4期
売上高	14,963	15,263	16,592	17,600	19,000	19,900	20,800	21,700
営業利益	547	809	1,183	1,351	600	1,050	1,200	1,550
営業利益率	3.7%	5.3%	7.1%	7.7%	3.2%	5.3%	5.8%	7.1%

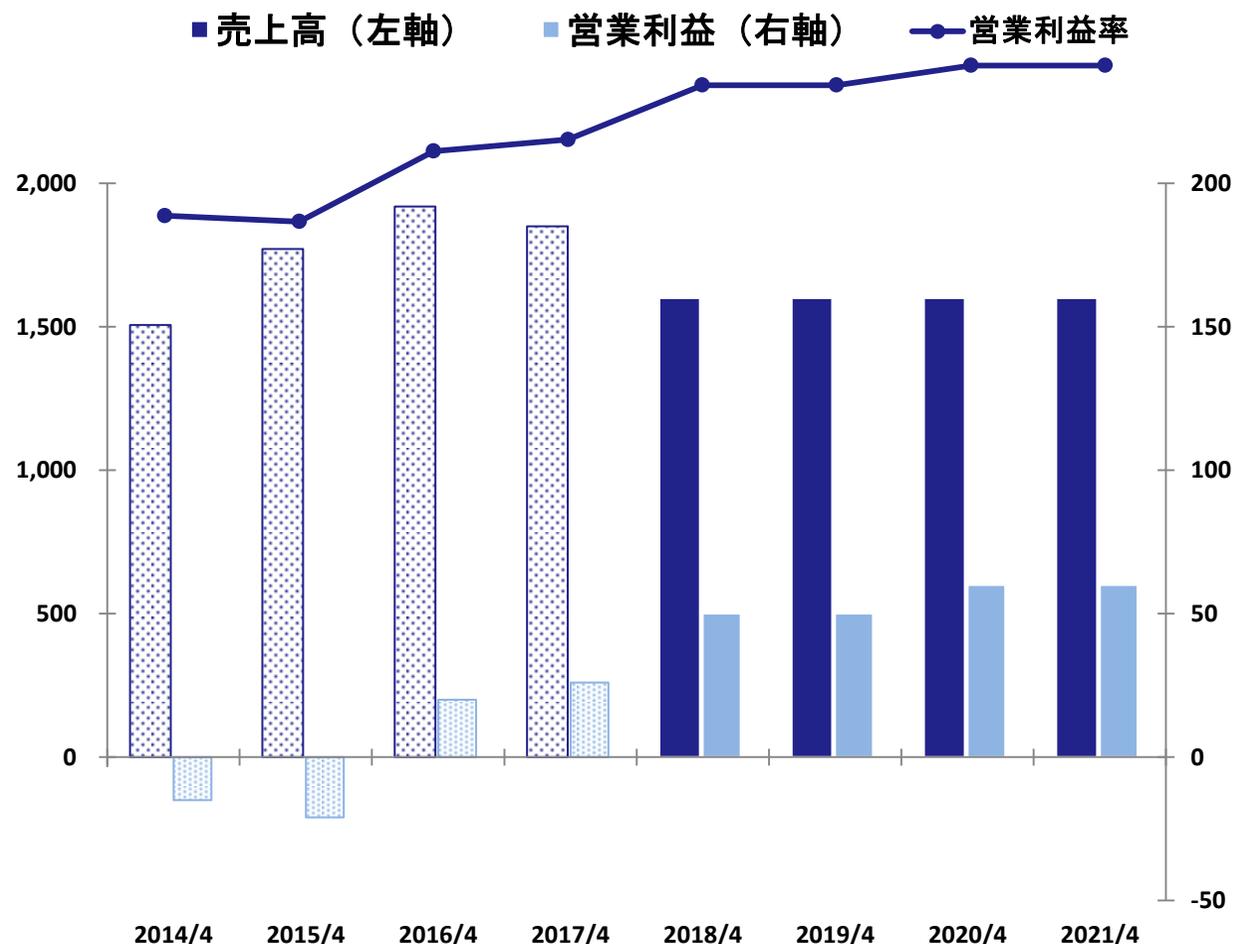


業績計画の概要

- **新規ホテルの開業**
 2018年4月期 札幌VH大通公園
 2019年4月期 大阪VH本町
 以降も每期1~2ホテルの開業を想定
- **高崎ビューホテル**
 2017年12月末で営業を終了
- **2018年4月期**
 浅草、成田を中心に集中的な設備投資を計画(訪日外国人旅行者対応、安心・安全への取組み)

4. 業績の計画 ③施設運営事業

単位: 百万円	実績				業績予想	中期経営計画			
	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2017/4期	2018/4期	2019/4期	2020/4期	2021/4期
売上高	1,506	1,771	1,919	1,850	1,850	1,600	1,600	1,600	1,600
営業利益	△15	△21	20	26	26	50	50	60	60
営業利益率	△1.0%	△1.2%	1.0%	1.4%	1.4%	3.1%	3.1%	3.8%	3.8%

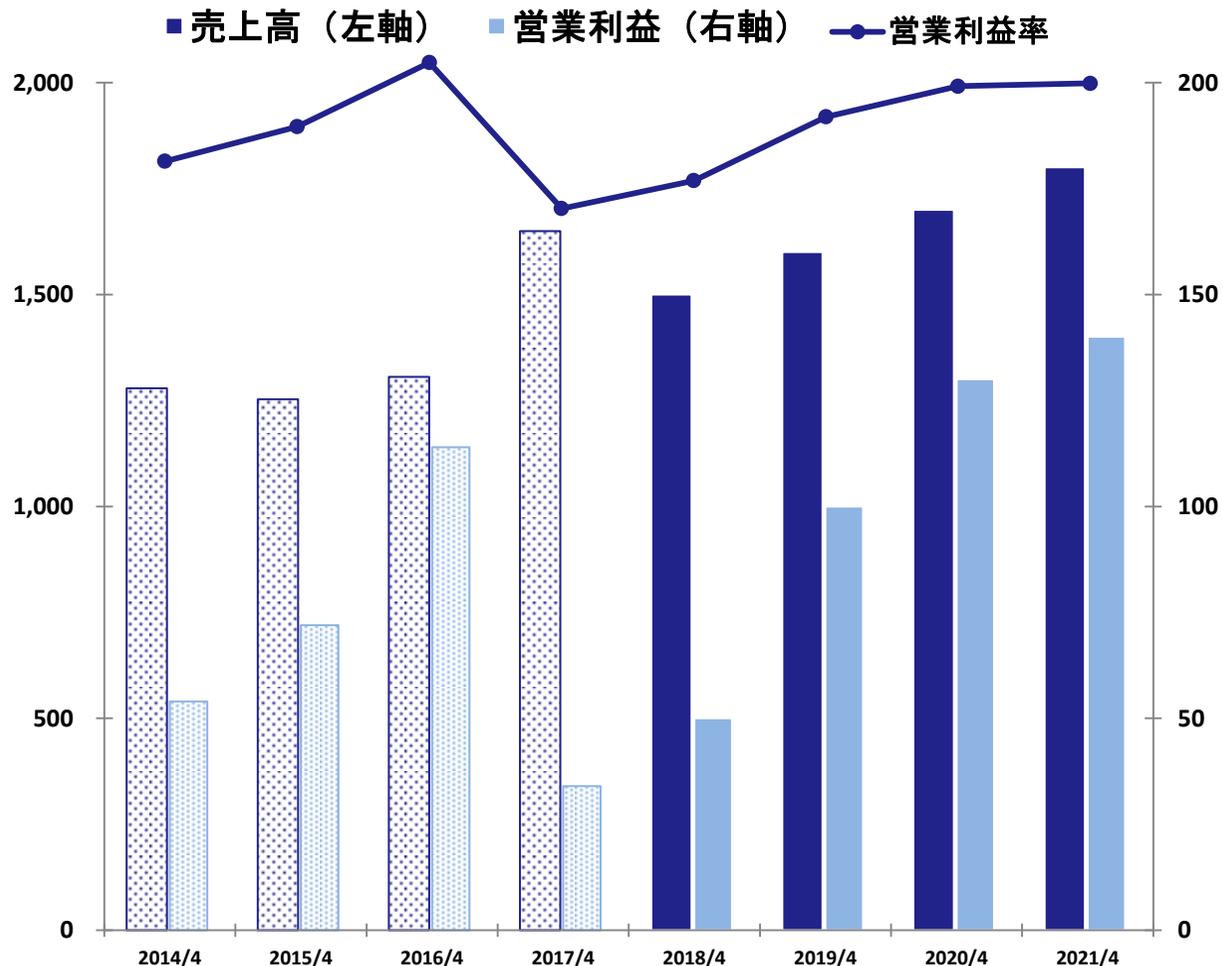


業績計画の概要

- 既存事業所の収益力アップの施策
 - ・安定的な収益力の構築
 - ・インターネットを中心とした商品プランの充実による販売強化 (シニア層、女性向けプランの充実)
 - ・リピーターの確保と拡大
- 新規案件獲得による成長
 - ・当社グループのノウハウを活かし、業績向上戦略の提案によるホテル、旅館の運営受託案件の獲得
 - ・小規模施設での安定的な運営実績を基に保養所運営受託契約の獲得

4. 業績の計画 ④遊園地事業

単位: 百万円	実績			業績予想	中期経営計画			
	2014/4期	2015/4期	2016/4期	2017/4期	2018/4期	2019/4期	2020/4期	2021/4期
売上高	1,279	1,253	1,306	1,650	1,500	1,600	1,700	1,800
営業利益	54	72	114	34	50	100	130	140
営業利益率	4.2%	5.8%	8.7%	2.1%	3.3%	6.3%	7.6%	7.8%



業績計画の概要

- 「那須の恵み Mekke！」やイベントでの集客拡大により安定的な収益基盤へ
- ・ 「那須の恵み Mekke！ ブッフェ&マルシェ」(2016年7月開業)
- ・ 来園者以外も利用可能な施設でV字回復する那須観光客全般の取込み
- ・ 天候に左右されない営業基盤作り、オフシーズン対策による安定的な収益基盤の構築
- ・ イルミネーションや花火などのイベントの充実、認知度のアップ



1	中期経営計画の基本方針
2	経営の状況と課題
3	経営戦略
4	業績の計画
5	株主還元
6	補足資料

毎期の安定配当と持続的な企業価値の拡大によるトータルな株主還元

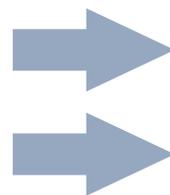
配当と成長戦略のバランス

株主還元

安定的な配当性向

成長投資

将来に亘る利益の拡大



トータルな株主還元の実現

直接的な利益還元

中長期的な株価上昇

配当性向は、成長戦略とのバランスを取りながら安定的に30%以上としていく方針

配当の推移

	2015/4期	2016/4期	2017/4期 予想
1株当たり 配当金	20円	27円 普通配当 22円 記念配当 5円	22円
配当金額 の総額	192百万円	261百万円	212百万円

自己株式の取得……株主への一層の利益還元

取得対象株式の種類	普通株式
株式の取得価額の総額	5億円(上限とする)
取得し得る株式の総数	400,000株(上限とする) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.13%)
取得期間	2017年1月13日～2017年7月31日

株主優待制度 … グループ施設のご優待券

- 株主還元を目的とした株主優待制度
- ご利用に際しての制約を少なくし利便性を高めるため金額優待券を採用

対象となる株主様

毎年4月30日と10月31日現在の株主名簿に記載された当社1単元(100株)以上を保有されている株主様

優待対象施設と優待内容

保有株式数	優待内容
100株以上300株未満	500円優待券 4枚(2,000円相当)
300株以上500株未満	500円優待券 6枚(3,000円相当)
500株以上	500円優待券 10枚(5,000円相当)

有効期間及び贈呈時期

- 優待券の有効期間は6ヶ月間
- 毎年7月中旬と1月中旬に発送

優待対象施設 (2016年12月末日現在)

浅草ビューホテル、成田ビューホテル、
秋田ビューホテル、高崎ビューホテル、
伊良湖ビューホテル、両国ビューホテル、
ホテルビューパレス、
ぎょうけい館、ホテルプラザ菜の花、
グリーンパール那須、おきたま路

那須りんどう湖 LAKE VIEW

優待対象内容

宿泊、レストラン、宴会、婚礼

入園料、レストラン

1 中期経営計画の基本方針

2 経営の状況と課題

3 経営戦略

4 業績の計画

5 株主還元

6 補足資料

会社名	日本ビューホテル株式会社	
所在地	東京都台東区西浅草3-17-1	
設立	1953年5月4日	
代表者	代表取締役社長 遠藤 由明	
資本金	2,769百万円 (2016年10月31日現在)	
決算期	4月30日	
市場	東京証券取引所市場第一部	
従業員数	連結 872名、単体 705名 (2016年10月31日現在、嘱託・パート・アルバイトを除く)	
大株主 (持株比率)	ビューリック株式会社	26.1%
	株式会社立飛ホールディングス	5.8%
	名古屋鉄道株式会社	5.0%
	日本ビューホテルグループ 社員持株会	2.6%
	(2016年10月31日現在)	

連結業績・資産	2015年4月期	2016年4月期
売上高	18,188百万円	19,721百万円
営業利益	869百万円	1,327百万円
総資産	22,866百万円	24,162百万円
純資産	14,118百万円	14,543百万円



創業 那須の開発

- 1953年
那須観光株式会社設立
- 1960年
那須ビューホテル開業
- 1964年
那須興業(株)設立
- 1965年
りんどう湖ファミリー 牧場
(現 那須りんどう湖 LAKE
VIEW) 営業開始



事業の拡大

- 1966年
日本ビューホテル(株)に商号
変更
- 1968年
伊良湖ビューホテル開業
- 1974年
成田ビューホテル開業
- 1977年
ホテルビューパレス開業
日本ビューホテル事業(株)
設立
- 1983年
高崎ビューホテル開業
- 1984年
秋田ビューホテル開業
- 1985年
浅草ビューホテル開業

経営の再建

- 2001年
民事再生手続を申立
- 2005年
民事再生手続終結決定
- 2007年
エムシーピースリー投資事
業有限責任組合による出資
- 2012年3月
再生債務を期限前完済



新たな成長へ

- 2012年 5月
浅草ビューホテルレストラン
「武藏」オープン
- 2014年 7月
東京証券取引所
市場第二部に上場
清流の宿 おくたま路開業
- 2015年 7月
東京証券取引所
市場第一 部指定
- 2015年10月
ヒューリック(株)との
資本・業務提携契約締結
- 2015年11月
両国ビューホテル開業
- 2016年7月
那須の恵み Mekke! 開業

浅草ビューホテルを旗艦ホテルとするホテル事業を中核に、宿泊・観光事業グループを形成

ホテル事業

直営によるVIEW HOTELブランドを展開するグループの中核事業

- コンセプトは、「ホスピタリティ」、「地域密着」、「ビュー(景色・ロケーション)」、「進化と変化」。
- 当社グループの経験とノウハウを最大限に発揮すべく「VIEW HOTEL」ブランドでの直営によるホテル経営(一部のホテルは、土地・建物の賃借による直営)。
- 下町浅草エリアの唯一の高層ホテルである浅草ビューホテルが旗艦ホテルとしてグループ業績を牽引。観光立国政策を追い風に、スカイツリーや日本文化に溢れる観光資源が立地の優位性を拡大。
- 浅草ビューホテルの他、シティホテルとリゾートホテルを有し、客室の他、料飲施設、結婚式場、宴会場、会議室等を設置し、宿泊、料飲、宴会・婚礼の各部門を営業。ホテルによってはスパや温泉などを設け、顧客が快適に過ごせるよう施設の充実を図っている。



施設運営事業

低い事業リスクで宿泊施設をチェーン展開

- 「VIEW HOTEL」ブランド以外のホテルや旅館の経営、ホテルや旅館、保養所の運營業務受託、運営指導を行っている。「VIEW HOTEL」ブランドを用いたFC契約によるチェーン展開なども実施。
- 賃借による運営では、賃借した土地・建物において当社グループによる直営方式でのホテルや旅館の経営を実施。運営委託者の要望に応じて、委託料を受領し運營業務を受託する形態での運営受託やホテル・旅館経営のノウハウを提供する運営指導も実施。



遊園地事業

認知度の高い那須りんどう湖 LAKE VIEW

- 栃木県那須高原に位置するレジャー施設那須りんどう湖 LAKE VIEWを運営。
- 自然に恵まれた広大な園内に那須高原唯一の湖を有し、各種の動物、乗物、アトラクション、レストラン等を設置。多彩なイベントも開催し、那須高原を代表するレジャー施設として高い認知度。



関東圏を中心に18ホテル(提携含む)を運営

ホテル事業



施設運営事業

※下記の他、旅館1施設、保養所1施設の運営業務を受託



連結損益計算書

単位:百万円	2012年 4月期	2013年 4月期	2014年 4月期	2015年 4月期	2016年 4月期
売上高	15,742	16,820	17,645	18,188	19,721
売上原価	4,233	4,351	4,566	4,710	5,030
売上総利益	11,509	12,468	13,078	13,478	14,690
販売費・一般管理費	11,177	12,119	12,484	12,608	13,363
営業利益	331	348	593	869	1,327
営業外収益	611	667	327	335	96
営業外費用	151	164	146	146	164
経常利益	792	851	774	1,058	1,258
特別利益	71	11	2	0	112
特別損失	86	304	167	133	315
税金等調整前当期純利益	777	558	609	925	1,055
法人税、住民税及び事業税	711	152	237	308	295
法人税等調整額	△631	1	△46	29	53
少数株主損益調整前	697	404	418	587	706
少数株主利益	2	—	—	—	—
当期純利益	694	404	418	587	706

連結貸借対照表

単位:百万円	2012年 4月期	2013年 4月期	2014年 4月期	2015年 4月期	2016年 4月期
現金及び預金	4,267	3,344	2,809	3,490	3,572
売掛金	727	722	666	659	869
その他流動資産	715	760	640	622	819
流動資産合計	5,711	4,827	4,116	4,772	5,260
有形固定資産	13,987	15,596	16,117	16,419	17,097
無形固定資産	1,439	1,436	1,425	1,414	1,405
投資その他の資産	372	408	293	259	399
固定資産	15,799	17,440	17,836	18,093	18,901
資産合計	21,510	22,268	21,953	22,866	24,162
うち有利子負債(割賦含む)	5,569	6,519	5,939	5,684	5,580
流動負債	4,008	3,676	3,649	3,934	4,876
固定負債	5,261	5,946	5,154	4,813	4,742
負債	9,270	9,622	8,804	8,747	9,618
資本金	2,579	2,579	2,579	2,751	2,766
資本剰余金	1,500	1,499	1,499	1,671	1,686
利益剰余金	8,161	8,565	8,984	9,572	10,085
その他	0	1	85	123	4
純資産	12,240	12,645	13,148	14,118	14,543
負債純資産合計	21,510	22,268	21,953	22,866	24,162

この資料は投資家の参考に資するため、日本ビューホテル株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、提出日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

この資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、この資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

 VIEW HOTELS